

平成27年度 施策評価表 (平成28年度向け施策の取組方針)

施策名: 地域の歴史
 施策番号: 17 - 01

1 施策の基本情報

施策名	17 地域の歴史	展開方向	01	文化財や歴史資料等の地域資源を保存・活用するとともに、地域の歴史や文化財に関する情報を市内外に発信します。
プロジェクト項目の該当有無		現役世代の定住・転入促進		
市長公約の該当有無		13 既存施設を活用した(仮称)歴史文化センター整備に向けて取り組みを進める。尼崎の歴史、文化を学び発信する取り組みを推進する。		
局重点課題項目の有無				
担当当局	教育委員会			

2 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値(H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
文化財収蔵庫・田能資料館での展示会の観覧者数		H24 9,161 人	29,000	13,828	22,264	**	**	**	66.0%
指定・登録文化財の件数		H24 104 件	109	106	107	**	**	**	60.0%
地域研究史料館相談利用(レファレンス)人数		H24 1,833 人	1,962	1,877	2,201	**	**	**	100%
地域研究史料館所蔵史料整理・公開比率		H24 76 %	78	76	77	**	**	**	50.0%

4 担当局評価(一次評価)

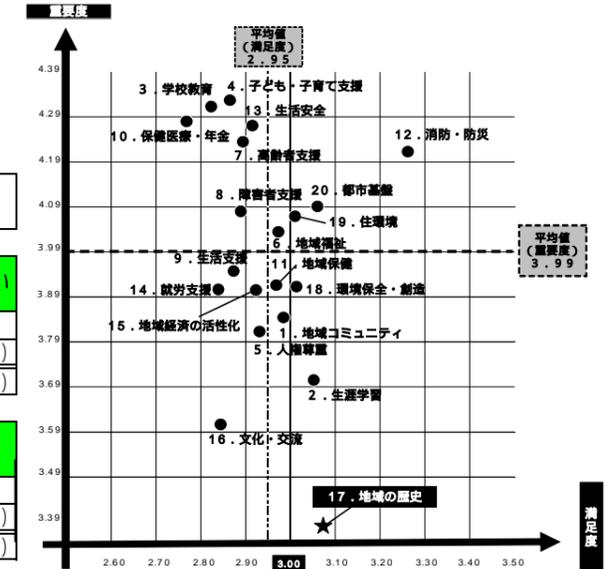
これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)	
<p>行政が取り組んでいくこと 歴史遺産の保存と活用</p> <p>(文化財収蔵庫・田能資料館) [埋蔵文化財取り扱いの保全・調査] 埋蔵文化財の調整 平成26年度から埋蔵文化財取り扱いの手引きの発行・配布、埋蔵文化財専用電話の設置等により、市民・事業者の利便性向上を図るとともに、法令に基づく協議をより円滑に進めるため、計画策定早期段階からの埋蔵文化財取扱い協議の周知徹底に努めた結果、従前は年間1,000件未満であった照会件数が、平成26年度には1,759件に増加し、事前調整が図られてきている。 [地域の歴史や文化財に関する調査研究・資料収集、調査研究成果の情報発信] 調査研究成果を踏まえた文化財指定・登録による情報発信 市文化財指定については文化財の調査研究成果を踏まえ、継続的に取り組むほか、国登録文化財についても尼崎市都市美形成建築物の登録を進めたことにより、兵庫県第5位、阪神間第1位の42棟となった。文化財の指定・登録は新聞等に取り上げられることも多く、尼崎の歴史や文化財の豊かさをPRする良い機会になっている。(目標指数) [史跡・文化財や歴史資料等の各種収集資料の保存・公開、観光資源としての活用] 歴史資料の収集と保存・公開 資料収集を寄贈・寄託に限るなか、平成26年度は10点増加し、収蔵資料数は27,031点になった。しかし、資料購入のあり方は今後の課題となっている。また、収集資料は温度湿度が管理できる民間倉庫を借りて保管しているが、資料の公開・活用面等での制約もあり、保管のあり方も課題となっている。公開・活用については、尼信会館での展示会に加え、平成26年度からは文化財収蔵庫企画展示室で年5回企画展を開催し、積極的な公開・活用に努め、486点の資料を公開、9,492人が観覧し、文化財収蔵庫入館者の増につながった。引き続き、貴重な歴史資料の更なる公開を進めるとともに、適切な管理を行うため、早急に施設整備を進めていく必要がある。(目標指数) 史跡・文化財の保存と観光資源としての活用 文化財を歴史遺産として保存・活用し、市民と協働で戦略的に情報発信していくための方策等については、平成26年度に富松城跡をモデルとして開催した懇話会の意見を踏まえ、平成27年度はシンポジウムを開催するなど、更なる協働の取組を進める。 また、田能資料館では、特別展等を開催するなか、市民の歴史学習や郷土愛を育てており、市外からの来館者も多く、尼崎の魅力発信にもつながっている。平成26年度は、展示に関連したワークショップを取り入れ来館者の年齢層の幅を広げるとともに、特別展の期間を2週間延長するなどにより、観覧者は、前年度の1.5倍超の5,101人に増加した。今後も工夫を行い開催していく。(目標指数)</p> <p>(地域研究史料館) [歴史資料の利用・公開、情報発信] 史料の利用・公開の分野では、引き続き市民にとってわかりやすく利用しやすいレファレンスサービスを重視するとともに、館公式Webサイト等を活用した情報発信に努めた結果、年間相談利用人数2,201人と、目標値1,962人を上回った(目標指標)。市民や専門研究者、学生・院生、市内団体・企業・行政機関等の多様な利用があり、その内容も各時代・分野の歴史調査から身近な地域への興味関心、現実の地域課題と多種多様である。情報発信ツールとしてのWebサイトアクセス数(ページビュー)は、館公式サイトが年間2万4,700件、同史料・論文検索が20万2,300件、また開館日1日1件以上の記事を掲載しているブログは23万7,800件である。Facebookの1記事あたり平均閲覧人数は、平成25年度の130人から230人に増加し、多い記事は1,000人を超える。従来から公開している歴史コンテンツ"Web版尼崎地域史事典apedia"、"Web版図説尼崎の歴史"、"尼崎藩家臣団データベース分限"に加え、新たに"絵はがきデータベースあまがさきPCD"を構築・公開するなど、Web上の利用サービス向上に努めた。4コンテンツの年間アクセス数は順にそれぞれ102万件、5,600件、4,800件、9万4,000件となっている。 [歴史資料の調査・収集・整理] 地域研究史料館の史料調査・収集・整理・公開を継続し、古文書・近現代文書類1,049点、歴史的公文書557点をはじめ、計4,409点の史料を新たに受け入れた結果、平成26年度末現在の所蔵史料点数は33万1千点となった。また5,628点を年度中に整理・公開した結果、累積整理公開点数25万6千点、所蔵点数に占める比率は平成24年度より微増し77%である(目標指標)。引き続き調査・収集に努め、また市民ボランティアの協力を得つつ整理・公開を進めていく。歴史的公文書の分野における本庁保管・各課保管現用文書の調査、電子媒体の行政資料など多様な関連資料の把握、保存・活用についての原課との意思疎通、本格的な公文書館事業実施に向けた法制度準備等が課題である。 [歴史刊行物の編集・刊行] 情報を市内外に発信する刊行物として、各年度1号刊行する史料館紀要「地域史研究」を編集し、多様な専門家や市民の調査・研究成果を掲載することができた。600部を発行し、バックナンバーと合わせて年間245冊を販売。またレファレンスサービスにおける利用件数は年間79件であった。加えて平成28年度刊行予定の市制100周年記念新「尼崎市史」について、原稿の編集・作成作業を進めた。</p>	<p>進捗</p> <p>順調</p> <p>概ね順調</p> <p>やや遅れ</p> <p>遅れている</p>
<p>主な事務事業</p> <p>文化財保護啓発事業 歴史資料保存公開事業</p>	<p>関連する目標指標</p>

3 市民意識調査(市民評価)

総合計画に掲げる20施策について、その進捗度や関連する項目の市民意識を把握するため、施策の「重要度」、取組の「満足度」についての現状をお伺いするアンケートを実施しました。

項目内容	重要度				
	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
歴史遺産の保存と活用 地域の歴史に関する学習機会の提供 など	13.0%	25.4%	51.3%	7.6%	2.7%
26年度	第20位 / 20施策		5点満点中	3.38点(平均3.99点)	
25年度	第20位 / 20施策		5点満点中	3.92点(平均4.39点)	
満足度					
項目内容	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
	2.8%	14.6%	71.5%	8.6%	2.4%
26年度	第2位 / 20施策		5点満点中	3.07点(平均2.95点)	
25年度	第2位 / 20施策		5点満点中	3.08点(平均2.91点)	

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。



5 施策評価結果(二次評価)

次年度に向けた取組方針
<p>(地域研究史料館) [歴史資料の調査・収集・整理] 歴史的公文書等の保存・活用に係る課題の整理と調査、関係部局及び作成原課等との協議・意見交換を進めていく。 [歴史刊行物の編集・刊行] 市制100周年記念新「尼崎市史」の平成28年度刊行に向けて、計画的に編集作業を進める。</p> <p>新規・拡充の提案につながる項目 (文化財収蔵庫・田能資料館) [史跡・文化財や歴史資料等の各種収集資料の保存・公開、観光資源としての活用] 歴史資料等の公開・活用については、市制100周年を契機として、尼崎発祥の地である城内地区のまちづくりの基幹施設となる(仮称)歴史文化センターの整備により、歴史豊かな尼崎の魅力を市内外に発信する。 平成26年度に開催した懇話会での意見を踏まえ、富松城跡をはじめとした歴史遺産の保全に努め、地域住民等とも連携しながら活用し、歴史のまち尼崎の情報発信に努めることで、歴史を活かした市民との協働のまちづくりを進める。</p> <p>(地域研究史料館) [歴史刊行物の編集・刊行] 平成28年度においても、市制100周年記念新「尼崎市史」刊行のための取り組みを進める。</p> <p>改革・改善の提案につながる項目 (文化財収蔵庫・田能資料館) [史跡・文化財や歴史資料等の各種収集資料の保存・公開、観光資源としての活用] (仮称)歴史文化センター整備にあわせて歴史博物館資料取得基金は廃止し、基金に属する現金は、収集資料の保存活用経費へ充当する。</p> <p>(地域研究史料館) [歴史資料の調査・収集・整理] 絵はがきデータベースに引き続き、ボランティアの協力を得て所蔵写真画像データベースの設計・構築作業を実施中である。</p>

評価と取組方針
<p>・史跡や文化財を活かしたまちづくりを市民と協働して進めていく。</p> <p>・市制100周年記念の企画展等の開催においても、解説等をより丁寧に行うことで、市民が郷土を愛し、より地域の歴史等の理解が深まるよう工夫を図る。</p> <p>・来年度刊行予定の市制100周年記念新「尼崎市史」においては、近年の尼崎市の歩みを市民と共に振り返ることで、市民の地域に対する理解が深まり、さらなる郷土愛の醸成、協働のまちづくりにつなげていく必要がある。</p> <p>上記取組方針を踏まえ、施策の2次評価は「現行継続」とし、これまでの取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。</p>
総合評価
<p>重点化</p> <p>転換調整</p> <p>現行継続</p>

平成27年度 施策評価表 (平成28年度向け施策の取組方針)

施策名: 地域の歴史
 施策番号: 17 - 02

1 施策の基本情報

施策名	17 地域の歴史	展開方向	02 地域の歴史に関心を持つ市民の学習機会や場所の充実など、ともに学びあえる環境づくりを進めます。
プロジェクト項目の該当有無		現役世代の定住・転入促進	
市長公約の該当有無		13 既存施設を活用した(仮称)歴史文化センター整備に向けて取り組みを進める。尼崎の歴史、文化を学び発信する取り組みを推進する。	
局重点課題項目の有無			
担当当局	教育委員会		

2 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値(H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
文化財収蔵庫・田能資料館主催事業の参加者数		H24 1,243 人	1,300	1,089	1,388	**	**	**	100%
文化財収蔵庫ボランティアの活動者数		H24 2,183 人	2,400	2,270	2,712	**	**	**	100%
地域研究史料館講座・自主グループ参加人数		H24 854 人	895	870	848	**	**	**	0%
地域研究史料館出講・協力件数		H24 25 件	40	37	44	**	**	**	100%
地域研究史料館ボランティア作業延べ人数		H24 434 人	480	476	492	**	**	**	100%

4 担当局評価(一次評価)

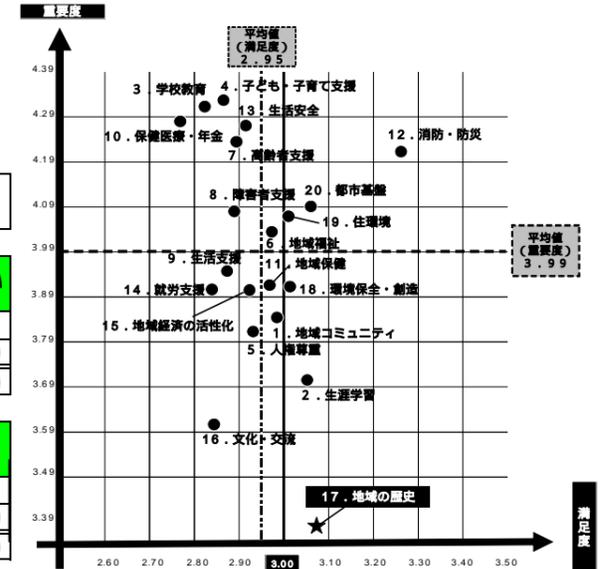
これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)	
<p>行政が取り組んでいくこと 地域の歴史に関する学習機会の提供</p> <p>(文化財収蔵庫・田能資料館) 【地域の歴史や文化財に触れる機会の提供】 体験学習等による学習機会の提供 文化財収蔵庫では地域の歴史や文化財をよりわかりやすく伝えるため、講座、見学会のほか、市民ボランティアの協力を得て実施する体験学習や民話の朗読、人形劇・紙芝居の上演、むかしの映像の上映会など、幼児から高齢者まで各年齢層に応じた多彩な方法による学習機会の提供に努め、平成26年度は延べ957人の参加があった。(目標指標) 田能資料館においても参加者が実物に触れ、生活の一端を復元するなど、楽しみながら昔のくらしや知恵を実体験できる「古代のくらし体験学習会」を実施しており、平成26年度は実施時期の変更や対象年齢をなくす等の工夫を行った結果、前年度の約2倍、延べ431人の参加があった。(目標指標) 【歴史学習に関するボランティアの養成と市民グループ等との連携】 ボランティアとの協働 体験学習の指導や、その素材となる綿等の栽培を行う「れきし体験学習ボランティア」と、出土遺物の保存と活用作業を行う「文化財サポートボランティア」の養成に努めている。登録者数は両ボランティアで110人を数え、文化財収蔵庫を拠点に学芸員との協働による積極的な活動が展開できるようになっており、平成26年度の延べ活動者は「れきし体験学習ボランティア」が1,370人、「文化財サポートボランティア」は1,342人で、前年度の1.2倍となっている。(目標指標) 市民グループ等との連携 尼崎郷土史研究会、尼崎ボランティア・ガイドの会、富松城跡を活かすまちづくり委員会等の歴史・文化財関係団体のほか、地域団体・老人会・NPO法人等市内の各種団体からの依頼に応じ、事業の企画や実施にあたっての連携・協力を努めたほか、地域の歴史や文化財に関する研修会・見学会に学芸員を講師として派遣し、平成26年度は36回、延べ2,276人が受講・参加した。 【市民が歴史を調べ学ぶことのできる拠点施設の整備】 (仮称)歴史文化センターの整備 「城内地区まちづくり基本指針」に基づく(仮称)歴史文化センターの整備に向け、平成26年度に実施した文化財収蔵庫の耐震診断では、建物東西軸の一部に補強が必要なものの、概ね良好な結果が得られたことから、耐震補強を含めた整備計画を策定していくこととしている。</p> <p>(地域研究史料館) 【地域の歴史を学ぶ場と機会の提供】 地域研究史料館事業における学習機会と場の提供としては、尼崎の通史を学ぶ講座「『尼崎市史』を読む会」を平成6年度以来実施しており、平成26年度は例会・分科会合わせて24回開催、延べ358人が受講した。また尼崎地域の古文書を学ぶ自主グループ「尼崎の近世古文書を楽しむ会」を3グループ計64回開催し、延べ490人が受講した。受講者数総計が848人であり、基準値854人より減少している。新たな受講者の開拓等が課題である(目標指標)。 【歴史に関わる多様な取組への連携・協力】 史料館主催講座以外に、他団体・機関からの要請による史料館職員の出講、歴史に関する講座・展示・調査・出版等の企画への連携・協力も日常的に実施しており、多様な形で学ぶ機会・場作りに協力している。平成26年度は市民団体・民間機関からの要請によるもの9件、公的機関からの要請によるもの21件、計30件出講した。公的機関からの要請による出講には、尼崎市の職員研修、公民館等の市民講座のほか、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、国立公文書館における公文書館研修等全国規模で実施される研究会・研修に依頼され、出講した事例もある。また歴史に関する講座・展示・調査・出版等の企画への連携・協力は、書面を取り交わして実施した14件がある(目標指標)。講座出講件数が増加傾向にあるため、複数職員による分担を実施しているが、さらに職場内での講義準備の効率化を進めることが今後の課題である。 【史料整理・活用に協力する市民ボランティア事業の実施】 地域研究史料館における市民ボランティアは、月1~2回の定例グループ作業3種類及び複数メニューの随時個人作業、年2回体験講座として実施する下張りはがし作業とメニューを用意して参加を募り、平成26年度は計327回、参加実人員78人、延べ人数492人の参加を得た(目標指標)。職員のマンパワーだけでは実施し得ない史料整理やデータ入力の結果を得るとともに、市民の多様な作業体験機会を作ることができた。平成26年度は館公式Webサイトの募集情報からのボランティア応募が増加した。引き続き、参加者数の増加に対応していくための環境整備が今後に向けての課題である。</p>	<p>次年度に向けた取組方針</p> <p>(地域研究史料館) 【地域の歴史を学ぶ場と機会の提供】 【歴史に関わる多様な取組への連携・協力】 地域研究史料館主催の講座・自主グループを継続するとともに、市民主体の歴史企画との連携・協力を重視し、協働による学習機会と場作りをさらに推進していく。 【史料整理・活用に協力する市民ボランティア事業の実施】 多様な市民ボランティア作業の実施を継続するとともに、Web等を活用し、従前に引き続き活動のPRに努める。一方で、ボランティア作業の拡充に対応する職員の業務上の負担が増大しており、ボランティア受け入れ体制の整備、作業効率化に努めていく必要がある。</p> <p>新規・拡充の提案につながる項目</p> <p>(文化財収蔵庫・田能資料館) 【地域の歴史や文化財に触れる機会の提供】 歴史学習機会の提供に関しては、引き続き、より効果的な手法の開発や市民ボランティア養成の継続的実施等を進めるとともに、参加者の増加を図っていく。また、親子で参加できる事業を更に開拓し、歴史を通じて郷土愛を育む機会を提供していく。 【市民が歴史を調べ学ぶことのできる拠点施設の整備】 (仮称)歴史文化センターの整備に関しては、平成26年度の耐震診断結果を踏まえて、平成28年度から城内地区整備の一環、および市制100周年記念事業の一環として、歴史学習の拠点施設の整備を進める。</p> <p>改革・改善の提案につながる項目</p> <p>(地域研究史料館) 【歴史に関わる多様な取組への連携・協力】 児童・生徒向けの学習機会と場作りのため、市政出前講座のメニューに新たに「尼崎の歴史[子ども・青少年向け]」を追加した。 【史料整理・活用に協力する市民ボランティア事業の実施】 従前に引き続き、市民ボランティアの協力を得て史料整理・公開・データベース構築などを進め、活動成果のPRに努めるとともに、ボランティア作業の拡充に対応する職員の業務上の負担を軽減しつつ作業を円滑に進めるため、ボランティア受け入れ体制の整備、作業効率化等に努めていく。</p>
<p>主な事務事業</p> <p>古代のくらし体験学習会事業 (仮称)歴史文化センター整備事業</p>	<p>関連する目標指標</p> <p>進捗</p> <p>順調</p> <p>概ね順調</p> <p>やや遅れ</p> <p>遅れている</p>

3 市民意識調査(市民評価)

総合計画に掲げる20施策について、その進捗度や関連する項目の市民意識を把握するため、施策の「重要度」、取組の「満足度」についての現状をお伺いするアンケートを実施しました。

項目内容	重要度				
	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
歴史遺産の保存と活用 地域の歴史に関する学習機会の提供 など	13.0%	25.4%	51.3%	7.6%	2.7%
26年度	第20位 / 20施策		5点満点中	3.38点(平均3.99点)	
25年度	第20位 / 20施策		5点満点中	3.92点(平均4.39点)	
満足度					
	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
26年度	2.8%	14.6%	71.5%	8.6%	2.4%
25年度	第2位 / 20施策		5点満点中	3.07点(平均2.95点)	
25年度	第2位 / 20施策		5点満点中	3.08点(平均2.91点)	

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。



5 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針	
<p>市民が、史跡や文化財等の固有の地域資源について学ぶとともに、将来につなぎ、活用していくための拠点施設の整備が求められている。このため、整備に係る費用を助成した上で、(仮称)歴史文化センターを効果的に整備し、より本市の魅力を高めていく。併せて、より史跡や文化財の適切な保存方法を検討していくとともに、魅力ある地域資源の発信について、検討していく。</p> <p>上記取組方針を踏まえ、施策の2次評価は「現行継続」とし、これまでの取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。</p>	<p>総合評価</p> <p>重点化</p> <p>転換調整</p> <p>現行継続</p>

平成27年度 施策評価表 (平成28年度向け施策の取組方針)

施策名: 地域の歴史
 施策番号: 17 - 03

1 施策の基本情報

施策名	17 地域の歴史	展開方向	03 住んでいる地域や尼崎市への愛着と誇りが育つよう、地域の歴史や文化財等の魅力を分かりやすくしっかりと伝えていきます。
プロジェクト項目の該当有無		現役世代の定住・転入促進	
市長公約の該当有無		13 既存施設を活用した(仮称)歴史文化センター整備に向けて取り組みを進める。尼崎の歴史、文化を学び発信する取り組みを推進する。	
同重点課題項目の有無			
担当当局	教育委員会		

2 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値(H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
尼崎の歴史に関心を持っている市民の割合		H24 56.0 %	71	62.6	55.8	**	**	**	0%
本市の文化財に関してマスコミが取り上げた回数		H24 84 回	97	84	86	**	**	**	15.4%
むかしのくらし学習等で文化財収蔵庫に來館した市立小学校数		H24 22 校	42	23	24	**	**	**	10.0%
学校等と連携した出張授業等の実施回数		H24 23 回	42	25	52	**	**	**	100%

4 担当局評価(一次評価)

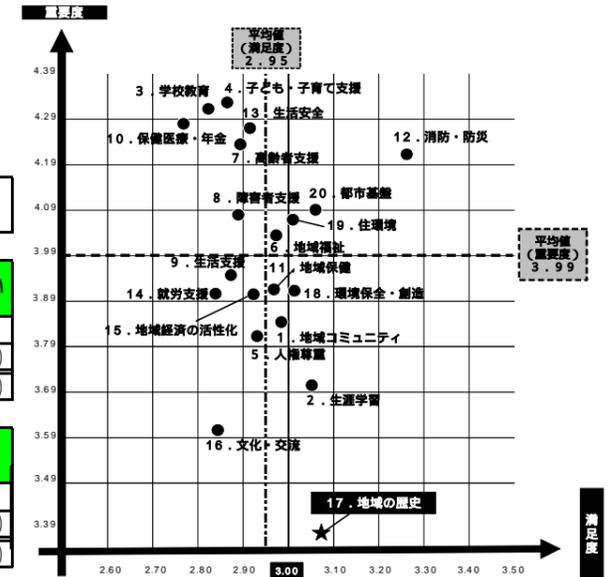
これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)	
<p>行政が取り組んでいくこと 住んでいる地域や尼崎市への愛着と誇りを育てる</p> <p>(文化財収蔵庫・田能資料館) [学校や社会教育施設、市民グループ等との連携による歴史・文化に触れる学習機会や場の拡充] 学校教育との連携 尼崎にゆかりの作物(綿や尼いも)の栽培を通して地域の歴史を学習し、収穫した作物を活用した体験等により効果を高める学校・園での学習を支援する「栽培活用支援事業」は、平成25年度の12校から平成26年度は21校に、教員・学芸員・ボランティアが役割を分担し、学校で体験や映像等を活用した授業を行う「出張授業」では校区にあわせて学習内容を工夫することで、地域学習を意識した授業展開に努め、平成25年度の12校から平成26年度は14校に増加した。特に、小学3年生の社会科のカリキュラムに即した文化財収蔵庫での「むかしのくらし学習」は、本事業を開始した平成21年度には11校の参加であったものが平成26年度には市立小学校の半数を超える24校にまで増加しており、学校教育との連携による歴史・文化に触れる学習機会の充実に努めている。(目標指標)</p> <p>学社連携の取組 平成25年度から開始した園和北小学校田能遺跡クラブとの学社連携の取組については、復元土器による炊飯の実施に加え、平成26年度は同小学校内に田能遺跡の土器や石器を展示し、歴史学習に役立てるなど校区内にある資料館として交流を深めるとともに、新たに他の小学校で古代米植え体験を実施するなど、田能資料館を知ってもらうきっかけづくりに努めた。引き続き、学校と連携するなか、身近に考古に親しむ機会を積極的に提供していく。(目標指標)</p> <p>社会教育施設等との連携 公民館の講座への学芸員の講師派遣や講座等の事業企画にあたっての連携・協力、図書館のロビー展示への収蔵資料の出展や展示企画にあたっての連携・協力等を行っており、社会教育主事、司書、学芸員がそれぞれの専門性を活かして連携することで学習機会の充実に図り、社会教育施設での収蔵資料の活用にも努めている。また、平成27年度は尼崎市総合文化センター等と連携するなか、明治後期から現在までの尼崎市南部地域のあゆみを、16章の物語に仕立て紹介する「あまがたり展」の開催に努めた。(目標指標)</p> <p>田能資料館では平成26年度は、新たに「出張勾玉づくり」を実施し、田能資料館のPRに加え、歴史に触れる学習機会の充実に努めるなか、参加者からは好評を得た。また、平成27年度は青少年課と社会教育課のコラボ事業「わくわく体験教室」を受け入れ、子どもたちが歴史等に触れる機会を提供するとともに、引き続き、社会教育施設等と連携した歴史・文化に触れる学習の機会の充実に努めていく。(目標指標)</p> <p>歴史・文化に触れる場の拡充 文化財収蔵庫を旧城内中学校に移転させ平成21年度から常設展示の公開を開始しており、来館者数は平成21年度の7,299人(1日平均30人)から平成25年度の10,207人(1日平均42人)にまで増加した。更に平成25年度には、企画展示室・講座室、駐車場(観光バス駐車可)の整備工事を行い、平成26年度からは土・日・祝日開館、企画展や歴史講座の館内での開催等を開始したため、平成26年度の来館者数は16,116人(1日平均52人)となり、前年度比で総数では約58%、1日平均では約26%増加しており、文化財収蔵庫の移転、整備の成果が現れてきている。(目標指標)</p>	<p>次年度に向けた取組方針</p> <p>(文化財収蔵庫・田能資料館) [学校や社会教育施設、市民グループ等との連携による歴史・文化に触れる学習機会や場の拡充] 文化財収蔵庫が実施している学校教育を支援する様々な事業について、学校への周知、PR方法の見直し、検討を行い、より多くの学校の参加が得られるよう充実に努めていく。</p> <p>新規・拡充の提案につながる項目 (文化財収蔵庫・田能資料館) [学校や社会教育施設、市民グループ等との連携による歴史・文化に触れる学習機会や場の拡充] 社会教育施設との連携については、小学生の副読本「わたしたちの尼崎」に掲載されている施設等に子どもたちが訪れる事業を受け入れるとともに、公民館や図書館と連携して施設利用者のニーズ把握に努め、引き続き効果的な事業実施について検討を行う。また、田能資料館は弥生時代の集落をビジュアルに体感できる施設であり、このような遺跡博物館は阪神間では唯一であるため、近隣各市からの学校をはじめ多くの方が訪れる施設となっている。こうしたことから、尼崎の魅力を市内外に発信するとともに、更なる学習機会の充実に努めるべく、老朽化が進んでいる復元施設の改修に取り組む。</p> <p>改革・改善の提案につながる項目</p>
<p>主な事務事業 (文化財収蔵庫・田能資料館)維持管理事業</p> <p>関連する目標指標</p> <p>進捗</p> <p>順調</p> <p>概ね順調</p> <p>やや遅れ</p> <p>遅れている</p>	<p>総合評価</p> <p>重点化</p> <p>転換調整</p> <p>現行継続</p>

3 市民意識調査(市民評価)

総合計画に掲げる20施策について、その進捗度や関連する項目の市民意識を把握するため、施策の「重要度」、取組の「満足度」についての現状をお伺いするアンケートを実施しました。

項目内容	重要度					満足度				
	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
歴史遺産の保存と活用 地域の歴史に関する学習機会の提供 など	13.0%	25.4%	51.3%	7.6%	2.7%	2.8%	14.6%	71.5%	8.6%	2.4%
	第20位 / 20施策		5点満点中		3.38点(平均3.99点)					
26年度	第20位 / 20施策		5点満点中		3.92点(平均4.39点)					
25年度	第20位 / 20施策		5点満点中		3.07点(平均2.95点)					
26年度	第2位 / 20施策		5点満点中		3.08点(平均2.91点)					
25年度	第2位 / 20施策		5点満点中		3.08点(平均2.91点)					

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。



5 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針
<p>文化財収蔵庫や田能資料館等において、展示内容や事業の連携等を図ることで、本市の歴史や文化に対する理解度を深めることができている。</p> <p>今後は、より一層、史跡や文化財を活かしたまちづくりを戦略的に推進し、地域の史跡や文化財を大切に市民意識の醸成等につなげ、より現状を前進させることが必要である。</p> <p>田能資料館は、尼崎の貴重な施設であることから、市民と協働して、保存やより活用できる手法等について、検討する。</p> <p>上記取組方針を踏まえ、施策の2次評価は「現行継続」とし、これまでの取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。</p>
<p>総合評価</p> <p>重点化</p> <p>転換調整</p> <p>現行継続</p>